

5月臨時会、6月定例会の報告

5月臨時会

5月11日(水)の1日間

令和4年度
議会体制が決定



耳が不自由です



中島りゅうじ

企画総務委員会、予算決算委員会(企画総務分科会)、
大規模イベントを生かしたまちづくり特別委員会に所属

正副議長が決定

議長 板垣 清志 議員(自民クラブ) 副議長 小島 政直 議員(公明党)

6月定例会 報告

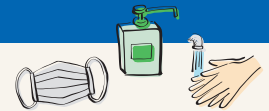
6月10日(金)~6月29日(水)の20日間

中島りゅうじ 一般質問

コロナ禍における教育現場の感染症対策

集団生活における感染症対策

Q.質問 小中学校における感染症対策の
主な取組と発生時の対応は?



A.答弁 ▶ 主な取組として、文部科学省が作成した「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に基づき、手洗いや換気の徹底、マスクの着用、登校時の健康観察など、基本的な感染対策を行っている。

- ▶ 発生時には、感染した児童生徒が活動した範囲を教職員が消毒を行う。
- ▶ 複数人の感染者や体調不良者が発生した場合は、学級閉鎖等を行い、校内での感染拡大防止を図っている。

教育現場におけるマスク着用

Q.質問 小中学校におけるマスク
着用に関する現状は?



A.答弁 ▶ 屋内では十分な距離が取れないため、多くの時間でマスクを着用している。

- ▶ 一方、登下校や体育の授業、屋外で体を動かす休み時間には、マスクを外すように指導しているが、自分でマスクを外してよいか判断できない低学年の児童もいる。
- ▶ 文部科学省からの通知を受けて、マスク着用の判断が難しい年齢の児童には、登下校時マスクを外すよう積極的に声掛けするなど、あらためて各学校に周知を図っている。

Q.質問 学校として、マスク着用による健康面に関してどのようなリスクがあり、その対策についてどのように考えているのか?

- A.答弁** ▶ 健康面のリスクとしては、気温・湿度や暑さ指数が高い中でのマスクの着用は、熱中症のリスクが高くなる。
- ▶ 特に思春期前の子どもは、汗をかくなどの体温調節能力が

未発達なため、熱中症のリスクがより高くなる。

- ▶ 対策として、特に気温・湿度の上がる夏場の活動で、マスクが不要な場面では、外すよう積極的に指導している。

Q.質問 着用する子どもと着用しない子どものそれぞれの気持ちを尊重しながら、着用したい時は着用し、外したい時は外してもいいような自由な雰囲気をつくるのが大切なのではないかと考えており、国の方針を踏まえ、マスクの自由化を含め今後の対応についてどのような考え方をしているのか?

A.答弁 ▶ 基本的な考え方として、学校は集団生活の場であることや学びの保障という観点から、マスク着用は有効な感染防止対策であり、一律のマスクの自由化ではなく、国の方針を踏まえ、地域の感染状況や活動内容、身体的距離、その他気温などに応じて対応する必要がある。

- ▶ その上で、マスク着用が支障になる可能性のある児童生徒に対しては、状況に応じて個別に対応していく必要があると考えている。
- ▶ 今後も国の動向に注視していく。